

## 令和2年度

### 劇場・音楽堂等機能強化推進事業

(劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業)

### 自己点検報告書

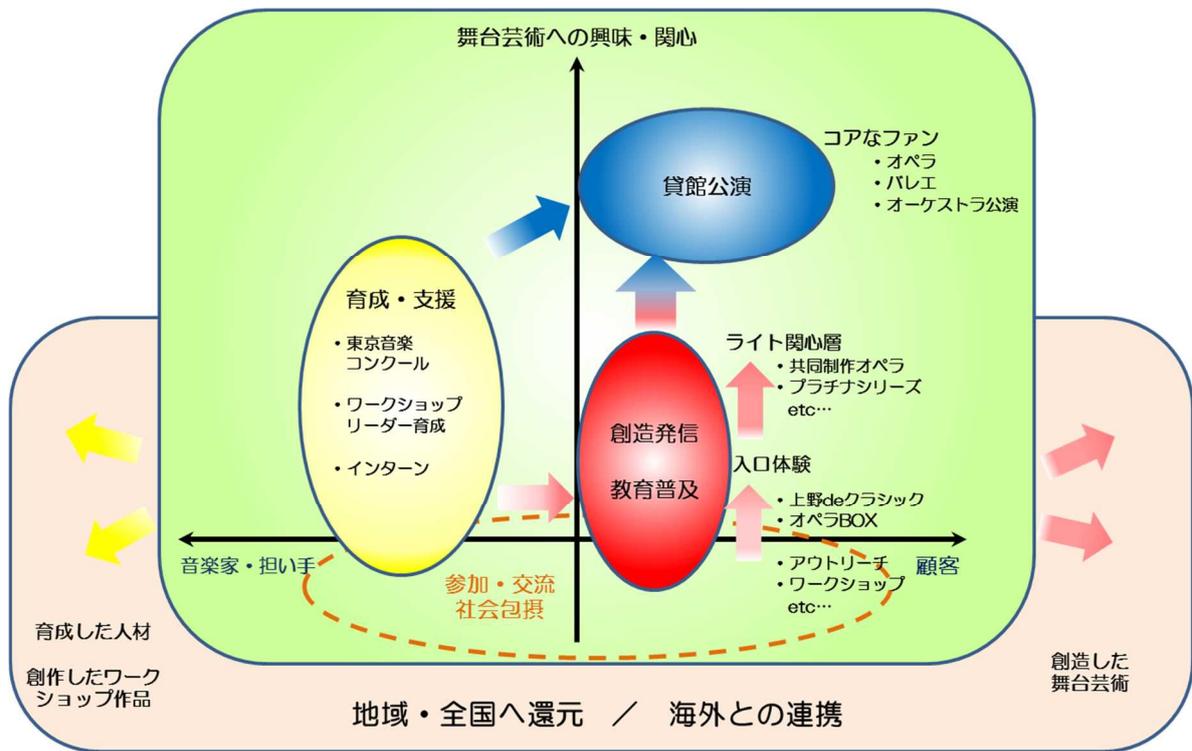
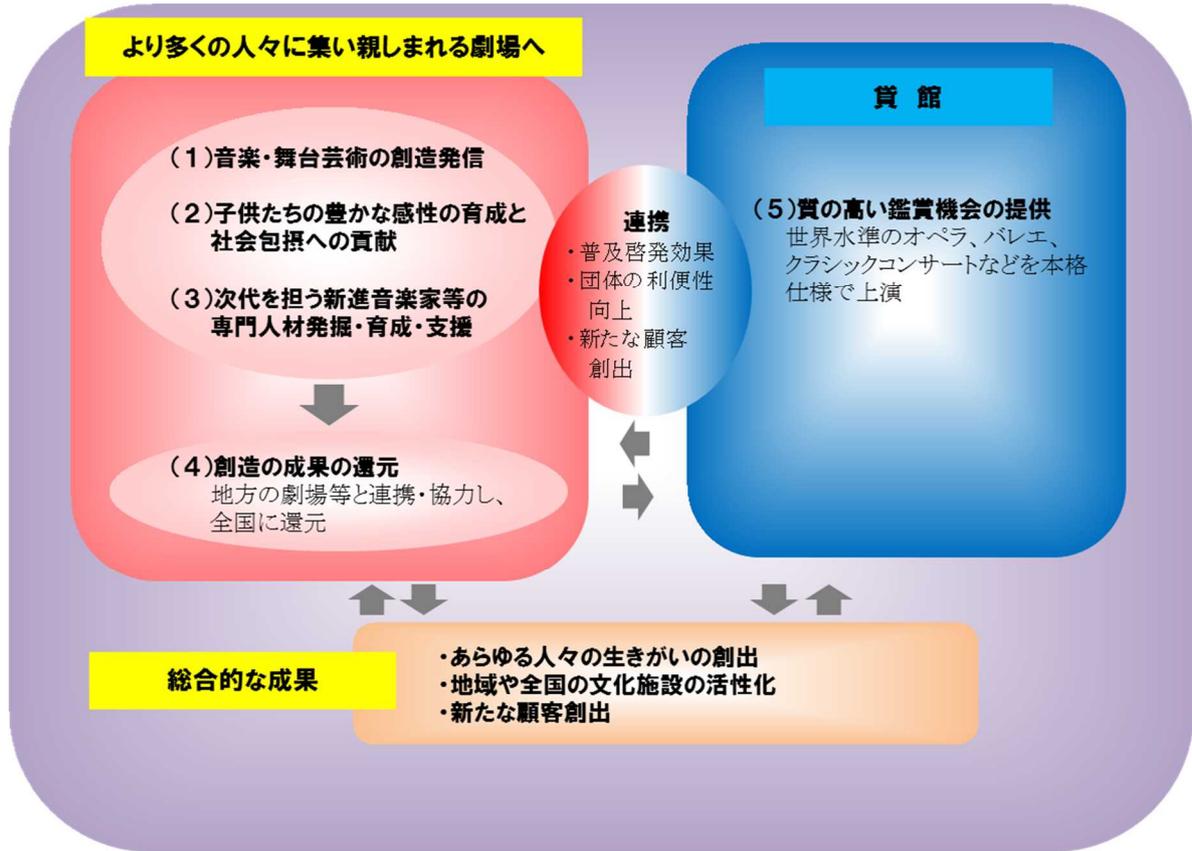
団 体 名	公益財団法人東京都歴史文化財団	
施 設 名	東京文化会館	
助 成 対 象 活 動 名	より多くの人々に集い親しまれる劇場へ	
助 成 期 間	5	(年間)
内 定 額	56,447	(千円)

# 1. 事業概要

## (1) 事業計画の概要

全体図（概念図）

～公立文化施設に求められる文化芸術の振興、文化芸術の力を活用した社会的課題の解決に向けた展開を視野に目指す姿～



## (2) 令和2年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	舞台芸術創造事業 歌劇『ヴォルフ イタリア歌曲集』	令和2年11月28日(土)	【出演者】ソプラノ:老田裕子、バリトン:小森輝彦、ピアノ:井出徳彦 【演出/構成】岩田達宗 ほか	目標値	470
		東京文化会館 小ホール		実績値	383※
2	オペラ BOX「アマールと夜の訪問者」	令和2年8月30日(日)	【台本・作曲】ジャン=カルロ・メノッティ、【指揮】園田隆一郎、【演出】岩田達宗	目標値	500
		東京文化会館 小ホール		実績値	251※
3	創遊・楽落らいぶ ー音楽家と落語家のコラボレーションー	令和2年9月9日(水) ほか※	【出演者】落語:雷門小助六 ほか 11/5 開催予定分新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止	目標値	2,250
		東京文化会館 小ホール		実績値	783※
4	響の森コンサート	令和3年1月3日(日) ※	【指揮】飯守泰次郎、【ピアノ】小川典子 7/14 開催予定分新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止	目標値	3,600
		東京文化会館 大ホール		実績値	1,186※
5	上野 de クラシック	令和2年7月15日(水) ほか※	【出演者】ソプラノ盛田麻央 ほか 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で次年度へ延期公演あり	目標値	6,000
		東京文化会館 大ホール ほか		実績値	2,376※
6	Enjoy Concerts! 小曽根真 & 東京都交響楽団 “Jazz meets Classic”	令和2年7月25日(土)、26日(日)	【曲目】モーツァルト:ピアノ協奏曲第23番 イ長調 K488 ほか、【ピアノ】小曽根真、【指揮】太田弦	目標値	3,130
		東京文化会館 大ホール オリナスホール八王子		実績値	969※
7	Enjoy Concerts! プラチナ・シリーズ	令和2年9月20日(日) ほか	第1回「小山実稚恵～名手が奏でる円熟のピアノイズム～」 【出演者】ピアノ:小山実稚恵 ほか	目標値	2,400
		東京文化会館 小ホール		実績値	1,816※
8	Enjoy Concerts! シャイニング・シリーズ	令和2年6月28日(日) ほか	【出演者】テノール:村上敏明、与儀巧、宮里直樹、小堀勇介、ピアノ:江澤隆行 ほか	目標値	700
		東京文化会館 大ホール ほか		実績値	1,072
9	第18回東京音楽コンクール及び東京音楽コンクールの充実	第1次予選:6月～7月 第2次予選:8月 本選:8月	【開催部門】ピアノ・弦楽・金管部門 【審査員】総合審査委員長:小林研一郎、コンクール顧問:堤剛 ほか	目標値	1,950
		東京文化会館 大ホール ほか		実績値	2,160
10	第18回東京音楽コンクール優勝者&最高位入賞者コンサート	令和3年1月11日(月・祝)	【出演者】指揮:角田鋼亮、ピアノ:大崎由貴、トロンボーン:伊藤雄太 ヴァイオリン:前田妃奈、ピアノ:谷昂登	目標値	1,600
		東京文化会館 大ホール		実績値	959※
11	夏休み子ども音楽会 2020 《上野の森文化探検》	令和2年8月10日(月・祝)	【出演者】指揮とお話:園田隆一郎、ソプラノ:中江早希、テノール:工藤和真、管弦楽:東京フィルハーモニー交響楽団	目標値	1,800
		東京文化会館 大ホール		実績値	791※
12	Enjoy Concerts! 3歳からの楽しいクラシック	令和2年11月7日(土)	【出演者】ピアノ:白石光隆、オーボエ:副田真之介、ファゴット:大内秀介	目標値	450
		東京文化会館 小ホール		実績値	547
13	Enjoy Concerts! まちなかコンサート	令和2年9月19日(土) ほか	【出演者】弦楽四重奏:吉江美桜(ヴァイオリン)ほか、メゾソプラノ & バリトン:高橋華子(ソプラノ) ほか	目標値	4,800
		東京文化会館大ホール ホワイエ ほか		実績値	5,431

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
14	Workshop Workshop!～国際連携企画～	令和2年4月～令和3年3月	【出演者】カーザ・ダ・ムジカ ワークショップ・リーダー、東京文化会館ワークショップ・リーダー、若手演奏家 ほか	目標値	2,600
		東京文化会館 ほか		実績値	3,606
15	Workshop Workshop! 2020 on stage & legacy	令和2年4月～令和3年3月	フォーラム、オーケストラと連携した公演・アウトリーチ、特別支援学校におけるワークショップ等の実施 ほか	目標値	1,400
		東京文化会館 ほか		実績値	2,843
16	Workshop Workshop! 東京ネットワーク計画	令和2年10月17日(土) ほか	都内文化施設と連携したアウトリーチの実施や人材育成、年間の活動成果を発表するコンサートの実施	目標値	1,000
		保谷こもれびホール ほか		実績値	641※
17	Music Education Program Talk & Lesson	令和2年7月16日(木)	レクチャー型の公開ワークショップの実施【出演者】ピアニスト:小曽根真	目標値	550
		東京文化会館 大ホール		実績値	383
18	Music Education Program オペラをつくろう!	令和2年7月23日(木)～8月30日(日)	オペラの児童・生徒合唱ワークショップの実施【講師】岩田達宗(演出)、園田隆一郎(指揮) ほか	目標値	870
		東京文化会館		実績値	448※
19	Music Education Program アウトリーチワークショップ	令和2年7月～令和3年3月	演奏指導者等を派遣し、演奏指導を行うクリニックとワークショップ・リーダーによる音楽ワークショップの実施	目標値	1,900
		墨田区立言問小学校 ほか		実績値	1,567※
20	オリパラ期間盛り上げ事業	中止※	東京2020大会の延期に伴い、東京都が事業中止の決定をしたため中止	目標値	6,000
				実績値	0※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

#### 自己評価

事業計画に必要な構成要素が有機的に連関し、当初の予定通りに事業が進められているか。

当館は、多くの文化施設が集結する上野の駅前という好立地に加え、世界遺産に登録された建築家コルビュジェが設計した西洋美術館を正面に、その弟子である建築家・前川國男が設計した当館の建築的な魅力と令和3年度に60周年を迎える古くからオペラやバレエを本格仕様で上演する舞台機構を持つ施設として数々の著名な欧米の劇場の引越公演が上演され、歴史的にも重要な施設として非常に高い稼働率を誇ってきた。しかしながら令和2年度の実質的な稼働率は大ホール45.4%、小ホール48.1%と大幅に落ち込むこととなった。

パンデミックの渦中ではあるが、東京都の文化ビジョンに記載された都立文化施設の運営方針に則った基本方針に沿って、自主事業を企画・運営しており、その事業企画はPDCAのサイクルを取り入れ、より質の高い事業展開に取り組んでいる。

事業の運営に当たっては、外部の専門家の意見も取り入れるため、定期的に外部評価委員会・運営委員会も実施。予算・決算時に評議員会・理事会を経て承認される。

今年度は、パンデミックの渦中ではあったが、ミッションに則り、自主財源、様々な助成金、協賛金、入場料収入等を財源として、育成した新進アーティストやワークショップ・リーダー、ベテランのアーティストやプランナーを投入して、「創造発信」「人材育成」「教育普及」の3本の柱を連動させて多様な自主事業を構成し、実施した結果、中止や延期、入場人数制限や外出制限でステイホームの1年であったにも拘らず当初予定の61%が来場した。配信プログラムの視聴者は積算数に加えていないが、ワークショップ参加者を超える人数の視聴も認められる。

制作した事業は専門誌等にも数多く取り上げられ、都内外の文化施設や教育機関・福祉機関とのネットワークの拡大にも繋がっている。これらのアウトプットにより、都内のみならず地方都市にも文化芸術を鑑賞する機会の創出に繋がり、コロナ禍の不安感を一時的でも一掃し潤いのあるひと時を提供することで、長期的な感染症対策に取り組むための一助にもなっていると考える。

上記のような実績の結果として、令和2年度の外部評価委員会及び平成31年度(令和2年度は今秋に決定)の指定管理者評価も高評価を得ることが出来た。

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

「創造発信」においては当館オリジナル作品の世界初演やコンサートのプログラムに世界初演作品を盛り込み上演。地方の2つの文化施設との連携した公演を実現した。助成をいただいた事業が発信力の高い作品であること、また地方でも上演されること等に文化的・社会的意義が認められる。

「教育普及」では、新型コロナウイルス感染症対策として、本来であれば親密なコミュニケーションの機会となる全てのワークショップを、一定の距離を保ち、感染防止に配慮した参加スタイルに変更して実施することで参加者の安心感を獲得。手話や英語を使用したワークショップや特別支援学校に向けたオンラインのライブワークショップの開発により対象の幅も拡大し128%の参加者数となった。

平成31年度に刊行した「社会包摂につながるアート活動のためのガイドブック」は英語版としてHPで公開。フィンランドヘルシンキ市の文化施設を拠点としたオンライン国際シンポジウムにおいても高齢者の取組を紹介する機会を得、海外に向けて発信した。アクティブ・シニアの効果検証の結果はオンラインの公開講座として幅広い聴衆に向けた配信も実施した。

事業全体と連関する「人材育成」を通じて他の文化施設との関係の深化がコロナ禍においてさらに顕在化し、新進音楽家が活躍する機会を協働で創出した。国内の連携はもとより、ベルギーのオンライン国際シンポジウムにおいても、平成31年度に九州大学と協働で実施した音楽家の育成に関する発表を行う機会を得たことで海外に向けても広く発信することが出来た。

コロナ禍において文化施設のアウトリーチや教育プログラムへの関心は高いが人的・財政的負担等で単独での開催が困難な現状を打破し、構築したネットワークを活用して、育成した若手人材の活動や舞台芸術の地方公演を実現することで様々な地域の活性化に貢献していることに経済的意義も認められる。

長期化するパンデミックの渦中に延期された東京2020オリンピック・パラリンピックの開催や60周年を迎えた令和3年度も、継続して各機関・団体と相互に連携・協力し芸術文化の発信に努めている。

## (2) 有効性

### 自己評価

目標が達成し、アウトカムの発現は可能か。

「創造発信事業」ではアウトカムに対し以下の目標を設定。各実績は以下の通りとなった。

- (1) 国際・国内連携 創造した作品を上演する他の文化施設や団体数【4】指標:5年間で10
- (2) コラボレーションと新たなクラシックの提案 実施数【6】指標:年間平均7
- (3) 若手の活用 ①創造系事業への東京音楽コンクール入賞者起作品【1作品】指標:5年間で8作品  
②創造系事業への東京音楽コンクール入賞者起用数【71名】指標:年間平均85名
- (4) 鑑賞機会の創出 ①児童向けコンサート【21回】指標:年間平均10回  
②コアなファン向けコンサート【7回】指標:年間平均9回  
③広く一般向けコンサート【46回】指標:年間平均55回

中止・延期を余儀なくされる厳しい実施状況ではあったが、外出を控える環境下で平均60%の集客の中、「3歳からの楽しいクラシック」は122%の集客となったことから、そのニーズに応えるプログラムを積極的に提供し、児童向けコンサートは指標を大幅に上回って実施した。今年度の指標は若干下回ったがコロナ禍の状況下においても当館ならではの作品を、特に若手を起用しながら様々な対象に向けて制作したアウトプットによりアウトカムが発現したと考えられる。

「教育普及事業」ではアウトカムに対し以下の目標を設定。各実績は以下の通りとなった。

- (1・2) 国際連携 施設(団体)との国際的連携数【1】指標:年間平均2
- (3) 社会的課題への対応  
①実施する延べワークショップ数【124回】指標:年間100回  
②開発するワークショップ数【15件】指標:年間13件
- (4) 若手の活用 東京文化会館ワークショップ・リーダーの起用数【387名】指標:年間平均延べ400名
- (5) 文化施設等多様な連携 文化施設や実演家団体との連携数【25】指標:年間平均35

コロナ禍における国際連携や多様な連携は困難を極めたが、コロナ対策を踏まえた新たなワークショップの開発や人数制限に伴う実施回数の拡大を図り指標の達成を目指した。

また、指標に反映していない配信プログラムも充実させ、ステイホームにおいても鑑賞・参加の機会を提供した。高い指標を実績に基づき設定したが、このような環境下での達成率としては十分に高いのではないかと考える。

「人材育成事業」ではアウトカムに対し以下の目標を設定。各実績は以下の通りとなった。

- (1) 新進音楽家 海外に於ける演奏機会及び招聘アーティストとの共演機会の創出数【0事業】指標:5年間で6事業
- (2) 舞台芸術を支える人材 多様なトレーニング実施数【11種類】指標:年間平均5種類
- (3) 若手の活用 各事業への東京音楽コンクール入賞者起用者数【100名】指標:年間平均80名

パンデミックや入国制限の下、国際交流の機会を持つことは叶わなかったが、新進音楽家の活動の範囲を拡大し、演奏の機会を創出した。海外の講師とはオンラインを活用したトレーニングを実施し、新たな邦人講師を起用したトレーニングの実施、専門家によるオンラインレクチャーの実施など、東京音楽コンクール入賞者や東京文化会館ワークショップ・リーダーのみならず、民間の文化施設との連携による若手の育成や、プロアーティスト、他の文化施設関係者等の学びの機会としても提供することが出来た。

目標の達成に向けては、年度を通じたパンデミックで困難を極める中においても、自主財源、様々な助成金、協賛金、入場料収入等を財源として、育成した新進アーティストやワークショップ・リーダー、ベテランのアーティストやプランナーに加えて専門人員を揃えた体制強化によるオリジナル性・新規性の高い事業を実現したこと、また、作品毎に、短期・中期で広報・販売計画を立てる等、各担当セクションが連動して運営したことにより、全体ではアウトカムの発現は可能であった。

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

令和2年度に展開した事業は、財団の方針により平成31年前半に予算を組み立てている。さらにその前年度にはアーティストの選定や創造発信事業の概要、人材育成事業のスケジュール等については決定しており、実施会場は規定に準じて15か月前、18か月前に手配すること、また、教育機関との連携に係る事業については、期間を設定してその期間内で事業を展開している。

新型コロナウイルス感染症拡大防止による緊急事態宣言による休館期間、入国制限の影響を受けながらも、事業全体の中止は20事業中1事業に留まり、19事業においては中止・延期を余儀なくされた公演はあったが、幸いにも最小限の影響に留まり、短期・中期で展開する事業を適切な準備期間を経て概ね実施することが出来た。

目標入場者数については、コロナ禍の中止や延期、入場制限や不特定多数に向けた事業展開が不可能であったことから定められた目標を大きく下回る結果となった。

事業費全体においては、入場制限や外出制限、3密回避の影響により入場者・参加者数は約40%減に、入場料・参加料収入は約40%減となった。また、協賛金、広告料は約20%減となった。

経費においては、海外からの招聘事業をオンラインに切り替える、他の助成金充当による経費減、広告宣伝の実施が困難な状況を踏まえて展開する等、約55%の支出に抑えて運営し、最終的に効率的な事業運営を実現した。

徹底した執行管理により、入場料収入状況や経費削減状況を把握し、教育普及事業のオンラインプログラムやオンライントレーニングの実施、配信用映像の制作等、コロナ禍における事業の拡充に充当することで、より質の高い事業展開を実現させることが出来た。

自主事業を執行していく上では、全体の収入や支出のバランスを見ながら必要に応じて事業間の予算の移動を行いながら効率的な運営を目指している。

個別事業については上記の理由により要望時とは乖離が見られる場合であっても、より効果的な助成金の活用を実現したと考える。

コロナ禍においては、出演予定の実演家団体の感染症対策や開催会場の自治体の方針により事業実施の可否が決定される他、入国制限や入場制限等により、先々の見通しが立たないことも多く、自らの努力では解決できない事情により直前までイレギュラーな対応が必要であったが、延期やプログラム内容を変更する等により事業期間内に多くの事業を実施することができた。

## (4) 創造性

### 自己評価

事業計画の内容が、独創性、新規性、先導性等に優れている（と認められる）か。

最も特徴的であるのは「人材育成事業」が基盤となり、様々な「創造発信事業」「教育普及事業」と有機的に連動して事業全体を構築している点であるが、その「人材育成事業」では、小林研一郎音楽監督が総合審査員長を務める東京音楽コンクールの国際化や、様々な事業に新進音楽家を起用した企画・運営、更に都内外の文化施設での公演に起用する等、監督自らが入賞者の活躍の機会の創出を推進し、事業展開の活性化を図っている。

オペラ制作を専門とする事業企画課長や創造事業、教育普及、社会包摂を専門とする担当係長、照明プランナーでもある舞台管理担当係長の継続した配置等により、それぞれの専門性を活かした事業内容の拡充や、各事業の企画・制作に携わる職員のスキルアップを図りながらミッションに呼応する独創的な事業を展開し、広報面でも担当係長を配置することでその成果を効果的に発信している。

館内に拠点を持つ東京都交響楽団とは定期的に協働で事業を展開しており、このような身近な実演家団体との連携が作品のクオリティの担保の一役を担っている。

また、日本でも数少ない本格的なオペラ公演の開催が可能な大ホールのみならず、「奇跡の音響」と称される小ホールでは、本来の使用目的であるリサイタルや室内楽に加え、その空間を活かした舞台芸術作品を企画・制作することで、より身近に多様な公演を観客に提供し、館の魅力を幅広く発信している。

「創造発信事業」では、オペラ演出家の岩田達宗を迎えヴォルフ作曲「イタリア歌曲集」をオペラ作品として上演。46の歌曲から成る作品を並べ替えて再編纂した物語を、歌手2名とコンテンポラリーダンサー2名による舞台作品として表現した。入場者数の達成率は81%と目標を下回ったがコロナ禍の状況においては予想以上となった。満足度も100%と圧倒的な高さとなり、観客、出演者やスタッフ等の関係者も満足できた公演となった。

また、オペラBOX「アマールと夜の訪問者」では、コロナ禍において初めて実施するオペラ作品として、稽古段階の感染予防策はもとより、作品の時代や地域を考慮し衣裳の一部としてマスクを着用する等、感染症対策に配慮して実施。50%の入場制限期間に開催したことから入場者数は当初目標の50%（実質は100%）に留まった。初来館者が目標10%に対し4%と大幅に下回ったことも、早い段階でリピーターの購入が進んだ影響と推察される。

「シャイニング・シリーズ」では東京音楽コンクール声楽部門入賞者による「テノールの響宴」を延期し、入場制限に対応するため会場を大ホールに移して開催。緊急事態宣言解除後に初めて行われた声楽のコンサートであることから「NHK ニュースウオッチ9」で取り上げられる等、注目を集めた。会場を変更したことから入場者目標の151%となった。また、「プラチナ・シリーズ」では新国立劇場の招聘する歌手を起用したリサイタルを企画・制作。びわ湖ホールや白河文化交流館コミネスでも開催し、計3箇所の文化施設との連携を実現した。

人材育成や教育普及では、予定していた海外からの講師の招聘は入国制限により実現できなかったが、オンラインを活用して育成した人材向けのトレーニングや人材育成に取り組む文化施設等に向けた「コロナ禍における若手アーティスト支援とアウトリーチを考える」講座をアメリカの講師により開催する等、海外の事例を学ぶ場を共有しながら文化施設のネットワークの強化に繋げた。

東京文化会館ミュージック・ワークショップは音楽をツールとした自己表現力やコミュニケーション力を養い豊かな心を育てることを目的とした取組であるが、コロナ禍においては他人との距離を保つことが重要であるため、大きく方向転換を図り、参加者が家族単位で楽しめる機会を創出すべく対応した。

国内の講師を新たに起用し、東京文化会館ワークショップ・リーダーのより豊かな表現力に向けたトレーニングを行いながら手話や英語を使ったワークショップも新規に開発して実施。手話付きワークショップ開催時には受付に手話通訳を配置する等、バリアフリー化を推進した。

新たなワークショップ実施にあたっては、舞台技術の専門職員を起用した照明、音響効果を導入し、より効果的な作品創りを行った。

劇場に足を運び難い障害者や発達障害の児童でも楽しめる「リラックスパフォーマンス」を東京フィルハーモニー交響楽団の協力を得て開催。ボディソニックや手話通訳の会場内配置、多動や発声に配慮した余裕のある配席等により満足度は90%と高かった。また、あらゆる人々を迎え入れるためユニバーサルガイドも作成して対応している。

これらをはじめとする当館の事業は、当館ならではの新進演奏家やワークショップ・リーダーの起用事業を核に、トップレベルのアーティストを起用して、世界初演作品をプログラミングする等、独創性、新規性に富んだ自らの企画・制作によるものであり、他の文化施設と構築したネットワークを活用して全国規模で展開を図る点で先導性が認められる。

これらの事業を安全に運営するために、定期的に舞台技術者研修に参加している。また、来館者の安全確保のため、危機管理マニュアルを作成し、日頃から対策を進めるとともに、非常時の連絡体制を明確にして万全の対応を取っている。

## 自己評価

事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につながっている（と認められる）か。

事業の根幹である「東京音楽コンクール」は、コロナ禍で開催が危ぶまれたが368名の参加者を迎え開催。入場制限50%の中、2次審査は2部門で完売し入場率平均91%を達成、本選においても3部門平均約120%の入場率と大幅に上回った。コロナ禍における参加者数、来場者数としては圧倒的に多く、若手アーティストや観客の大きな期待と考えられる。

小林音楽監督就任後に取組んだ改革により注目度も年々高くなり、審査結果や入賞者を起用した主催事業について「音楽の友」や「サラサーテ」「PIPERS」等の専門誌等に多数取り上げられた。

また、入賞者を起用したオペラBOX「アマールと夜の訪問者」では、毎日新聞webクラシックナビ「先月のピカイチ」として音楽評論家に推薦され『Mercare des Arts』にもレビューが掲載される等、高い評価を得ることができた。尚、同年12月には兵庫県立総合文化センターでも当館の協力の下、同作品が上演されている。

オペラ「ヴォルフ イタリア歌曲集」公演終了後には、NHK ラジオ深夜便で紹介された。また、この作品の振付・ダンサーである山本裕は『週刊オン☆ステージ新聞』の「公演ベスト5：振付家」に選出される等、注目度の高い作品となった。

教育普及事業についてはコロナ禍においても開催を希望される特別支援学校は増加傾向にあり、オンラインを活用したライブによるワークショップの要望に新規に制作して提供したことから、次年度以降のさらなる拡大が期待される。

「ONTOMO (Web)」ではポルトガル現地レポートと題し、連携するカーザ・ダ・ムジカの取組と共に当館の音楽ワークショップや育成事業が紹介された。

また、当館が所属するヨーロッパを拠点とする教育普及のネットワーク「RESE0」においては、当館の多様な取組を写真付きで加盟欧米文化施設に紹介。国際的な存在感をアピールした。

令和2年度に制作したオンラインで参加するミュージック・ワークショップ「リズムカル・キッチン」は5回シリーズとして配信しているが、半年程で5,600回再生されており、実際に参加するだけでなくステイホームの期間に家庭においても数多くの人々が音楽に親しむ機会を提供している。

前年度に実施した「400歳のカストラート」は企画段階から他の文化施設との連携を視野に創作したが、令和2年度に宮崎県立芸術劇場での巡回公演として開催。各地の文化施設から視察があり令和4年度の上演に向け2つの文化施設と調整中である。

また、平成29年度のオペラBOX「Help! Help! グロボリンクスだ! ~エイリアン襲来~」は令和2年度も連携した藤原歌劇団による「文化芸術による子供育成総合事業-巡回公演事業-」で採択され、全国6校で上演された。

海外との共同制作を契機に開始したニューヨークのチェルシー音楽祭との交流については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により開催中止となった。次回開催に向け引き続き調整を行っており、チェルシー音楽祭の外国人出演者を招聘し交流を深める予定である。

これらの継続したオリジナル作品の様々な会場における上演により、新進音楽家や実演家の活躍の機会の創出だけでなく、文化芸術が東京に留まらず全国規模で鑑賞できる機会の創出に繋げることが出来た。

多様な対象に向けたワークショップやトレーニングには、他の文化施設や教育機関、福祉機関からの視察希望も多く、継続して受入れている。ワークショップは都内各地の文化施設等からの新たな開催要望も寄せられ、より幅広い世代に向けた取組として認知されていることが分かる。次年度以降も様々な文化施設との連携を予定している。

また、建築面でも注目される当館では、「ja THE JAPAN ARCHITECT SPRING 2020 前川國男」「サンデー毎日」「東京人」等で紹介されるなど、幅広く存在を周知する機会となった。

年度末には公演写真を多用した視覚的な訴求効果のあるアニュアルレポートを作成し配布する他、HPにおいても閲覧可能とすることで広く発信している。

このように当館の特徴的な取組は、各種メディアや専門家等を通じて国内外に幅広く発信されており、その独創的で新たな提案は当館に対する評価を大いに高めている。

## (5) 持続性

### 自己評価

事業計画を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

持続的なアウトカムの発現・定着が期待できるか。

館全体の運営については外部評価委員会及び運営委員会を設置し、目標に沿った事業計画の策定と運営、課題の洗い出しと解決を継続して実施している。自らの事業運営を外部からの視点を通して継続して改善することで、事業のレベル向上と全体の機能強化に繋げている。

継続した運営を担保する人材の確保を視野に、若手制作者育成のためインターンを受け入れ、企画段階から運営まで、職員の一員として現場体験を実施しており、終了後には当館の臨時職員や職員として、また、新国立劇場を始めとした文化施設やマネジメント会社、実演家団体において活躍している。

令和2年度には雇用転換制度の活用により2名の正規職員雇用転換が決定した。

劇場の運営には専門人材の確保は必須である。正規職員の増員により、継続的に専門を担保し、長期的ビジョンの下運営する体制を整えるため財団の方針に則り正規職員の増員を毎年図っている。

職員は財団による計画的な研修への参加、例えば、舞台音響の専門家を海外の劇場に長期派遣研修に参加させる等、専門分野に特化した研修に参加してノウハウを吸収すると共に、財団の語学の習得補助の仕組みの活用や、財団内の他の文化施設との協働、平成30年10月3日に締結した新国立劇場との連携・協力協定を活用した共同制作の実施や双方の職員の交流によって多方面で継続的にスキルアップを図っている。更に、多摩地区や地方の劇場との連携も深化しており、職員のノウハウの共有やスキルアップが期待されている。特にコロナ禍における令和2年度においては、培ったネットワークを活用した文化施設間の連携事業の展開に繋げている。

また、全ての職員が年度開始時に目標を掲げて業務に携わり、自己評価と業績評価によって研鑽する制度を継続して導入している。

財政面においては、都立文化施設の指定管理者として、館運営の基盤については安定した財源が確保されており、コロナ禍においても都との協議により指定管理料を増額する措置が取られている。

事業を継続して運営していくために必要な資金調達のため、令和2年度に新たな協賛金制度を立ち上げた。コロナ禍で経済的な打撃が大きい年度の開始となったため新規開拓は困難を極めたが次年度以降に向けた準備期間とした。また、ロケーションBOX制度の活用も行っている。

友の会制度は令和2年度末で新規会員の募集を終了し、メルマガ会員の拡大と次年度に開始する個人協賛制度に向けて、更なるサービス向上を目指すと共に、支援者の拡大も図っている。このような制度を活用し、今まで構築した協賛企業や支援者等との関係を更に深め、安定した運営を目指すと共に、歴史ある当館のファン層を更に拡大している。

各事業において、都内外の文化施設や教育機関、福祉機関等と構築したネットワークの活用がコロナ禍での多様な事業展開に繋がっている。加えて、民間と大学との連携によるアクティブ・シニア向けの音楽ワークショップの効果検証の結果に基づくブラッシュアップにより満足度の高い事業を展開。前年度に大学との連携のより刊行した「社会包摂につながるアート活動のためのガイドブック」の英語翻訳や大学との連携により、海外のシンポジウムに登壇する機会を得るなど、事業の発展が認められている。今後も大学との連携を通じた検証を進めると共に、業種を問わないネットワークを構築することでイノベーションのきっかけとしていく。

新型コロナウイルス感染症のパンデミックの影響が予想以上に長期的に及ぶ現状を踏まえ、公演の自粛や国際的な展開、不安定な資金調達等の課題は残るが、今後も、先駆的な取組を行うことで牽引役を担うべく成果を幅広く発信し、全国の文化施設の活動の一助になるべく邁進していく。

尚、これらの事業を安全に遂行するために施設面の管理も定期的に行っており、毎月の保守点検に加え定期的な修繕工事を実施している他、施設の維持向上に不可欠な大規模改修工事も周期的に実施している。